

令和 6 年度第 1 回
北九州市上下水道事業検討会

北九州市上下水道事業
中期経営計画 2025 の
進捗管理
(令和 6 年度予算)

～ 目 次 ～

1	上下水道局 経営方針	1 ページ
2	令和6年度 上下水道局予算 主要事業	1 ページ
(1)	中期経営計画体系図	2 ページ
(2)	主要事業一覧	5 ページ
(3)	中期経営計画実施事業設定目標一覧	11 ページ
3	令和6年度 上下水道局予算 経営状況	26 ページ
(1)	水道事業	27 ページ
(2)	水道用水供給事業	29 ページ
(3)	工業用水道事業	31 ページ
(4)	下水道事業	33 ページ

1 上下水道局 経営方針

上下水道局では、令和3年3月に策定した「上下水道事業基本計画2030（計画期間：令和3～12年度）」及び「上下水道事業中期経営計画2025（計画期間：令和3～7年度）」に基づき、着実に事業を推進するとともに、経費節減や増収対策など、経営基盤の強化に努め、お客さまに信頼される上下水道を目指します。また、本市の持つ高い上下水道技術を国内外で活用し、上下水道事業の発展的広域化や国際貢献の推進に取り組みます。

2 令和6年度 上下水道局予算 主要事業

【重点的に取り組むもの】

- 上下水道施設の強靱化
 - 上下水道施設の長寿命化と改築・更新
 - 豪雨対策の拡充・強化
 - 震災対策の拡充・強化
 - 危機管理体制の充実・強化
- 環境負荷の低減
- 国内外への貢献
- DXの推進

(1) 中期経営計画体系図

将来像	重点施策	実施事業	R6 主要事業
		1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる	
		1-1 上下水道施設の長寿命化と改築・更新	
		1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新	●
		1-1-2 上下水道施設の規模の最適化	●
		1-2 豪雨対策の拡充・強化	
		1-2-1 浸水被害の最小化	●
		1-2-2 上下水道施設の豪雨対策	
		1-3 震災対策の拡充・強化	
		1-3-1 上下水道施設の耐震化	●
		1-3-2 バックアップ機能の強化	●
		1-4 危機管理体制の充実・強化	
		1-4-1 事故対応能力の向上	
		1-4-2 民間事業者や他都市等との連携強化	
		1-4-3 停電対策	●
		1-4-4 災害時における機能確保の推進	●
		1-4-5 自助・共助の促進に向けたソフト施策の充実	●
		2 いつでも安心して飲める安全な水を届ける	
		2-1 水源を守るための取組	
		2-1-1 水源林の保全	
		2-1-2 遠賀川の水質保全	
2-2 取水から蛇口までの水質管理			
2-2-1 安全な水対策			
2-2-2 水源や浄水場を有効に活用した水の供給			
2-2-3 直結式給水の普及促進や小規模貯水槽水道の管理指導			
2-2-4 水質管理体制の充実			

3	環境負荷の低減を図り、持続可能な社会に貢献する	
	3-1 環境負荷に配慮した事業の推進	
	3-1-1 合流式下水道の改善推進	
	3-1-2 水質監視強化	●
	3-1-3 再生可能エネルギーの活用	
	3-1-4 省エネルギーの推進	●
	3-1-5 資源の有効利用	●
4	国内外へ貢献していく	
	4-1 上下水道事業の発展的広域化	
	4-1-1 多様な広域連携の推進	●
	4-1-2 外郭団体等との連携強化	●
	4-2 本市の技術力・経験を生かした国際貢献	
	4-2-1 上下水道技術の国際協力	●
	4-2-2 海外水ビジネスの推進・支援	●
5	お客さまが求めるものをかたちにする	
	5-1 お客さまの理解と信頼を得る	
	5-1-1 効果的な広報・広聴活動の推進	
	5-1-2 小学生を対象とした上下水道に関する情報発信	
	5-2 お客さま満足度の向上	
	5-2-1 営業業務の見直し	
	5-2-2 料金の支払や各種手続方法の拡充	

6	培われた高い技術を未来へつなぐ	
6-1	職員の育成と活用	
6-1-1	上下水道技術の継承・人材の育成	
6-1-2	AI等を活用した技術の蓄積・継承の研究	●
6-1-3	上下水道技術の国際協力（再掲）	
6-2	民間事業者等との連携推進	
6-2-1	民間事業者等との連携推進	
6-2-2	産学官連携による研究開発の推進	
7	健全な経営を行う	
7-1	効率的・計画的な事業運営	
7-1-1	上下水道施設の規模の最適化（再掲）	
7-1-2	アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新（再掲）	
7-1-3	民間事業者等との連携推進（再掲）	
7-1-4	AIやICTを活用した業務の効率化	●
7-2	多様な収入の確保	
7-2-1	資産の有効活用	
7-2-2	水道・工業用水道利用促進対策	
7-2-3	多様な広域連携の推進（再掲）	
7-3	経営基盤強化に向けた検討	
7-3-1	料金体系のあり方の検討	
7-3-2	外部検討会の開催	

(2) 主要事業一覧

1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる

上下水道の強靱化を推進し、災害に強い安全なまちづくりに貢献して、市民の生活を守る。

1-1 上下水道施設の長寿命化と改築・更新【15,386,043千円】

上下水道事業を持続していくため、長期的な視点に立って効率的・計画的な上下水道施設の改築更新を進める。

1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新

- | | |
|-----------------------------------|--------------|
| ① 配水管等の更新 | 5,529,200 千円 |
| 配水管更新 (L=30.0km)、導送水管更新 (L=0.2km) | |
| ② 浄水施設の更新 | 1,160,206 千円 |
| 穴生浄水場東西系受配電設備電気計装工事 など | |
| ③ 工業用水道施設の改築更新 | 842,359 千円 |
| 北九州市工業用水道配水管布設替工事 (6-1工区) など | |
| ④ 下水道施設の改築更新 | 5,190,941 千円 |
| 日明浄化センター特高受変電設備改良 など | |

1-1-2 上下水道施設の規模の最適化

- | | |
|------------------|--------------|
| ① 配水ブロックの改善 | 49,300 千円 |
| 尾倉、黒川配水池の統廃合 | |
| ② 下水道施設の再編 | 1,015,000 千円 |
| 皇后崎浄化センターの再構築 など | |

1-2 豪雨対策の拡充・強化【2,827,986千円】

近年、局地化・集中化する豪雨から市民の生活を守るため、効果的に施設整備を進めていく。

1-2-1 浸水被害の最小化

2,750,000 千円

重点整備地区（長野津田地区他）の整備

1-3 震災対策の拡充・強化【8,373,780千円】

大規模な地震が発生した場合においても、水道の安全で安心した給水、下水道の最低限の水処理機能を維持するため、防災・減災の観点から、施設の耐震化やバックアップ機能の強化などを図っていく。

1-3-1 上下水道施設の耐震化

- | | |
|---------------------------|--------------|
| ① 浄水場・配水池の耐震化 | 295,290 千円 |
| 小熊野第一配水池の耐震化工事 など | |
| ② 水道管路の耐震化 | 5,529,200 千円 |
| 配水管等の更新 | |
| ③ 浄化センター、ポンプ場の耐震化 | 250,000 千円 |
| 城野ポンプ場耐震補強工事 など | |
| ④ 下水道管渠の耐震化 | 2,093,000 千円 |
| 伊川曾根主要幹線、東二島北湊主要幹線管渠更生 など | |

1-3-2 バックアップ機能の強化 206,290 千円

八重洲～城野分岐送水管整備 など

1-4 危機管理体制の充実・強化【232,785千円】

気候変動の影響による自然災害の増加などさまざまな災害リスクに備え、緊急時においても、安定給水、安定処理ができる体制を確保していくとともに、市民の自助や地域による共助、他都市との連携強化など、ソフト施策を組み合わせた総合的な災害対策を強化していく。

1-4-3 停電対策 52,785 千円

森下分岐非常用発電設備更新電気計装工事

1-4-4 災害時における機能確保の推進 26,000 千円

応急給水施設整備工事、マンホールトイレの整備

1-4-5 自助・共助の促進に向けたソフト施策の充実 154,000 千円

内水浸水想定区域図の拡充、雨水タンク助成事業

3 環境負荷の低減を図り、持続可能な社会に貢献する

環境首都北九州市にふさわしい環境負荷に配慮した事業をこれからも実施していく。

3-1 環境に配慮した事業の推進【431,455千円】

資源の有効活用や省エネ機器の導入を進め、環境負荷の低減に努めるとともに、水環境向上のための取組をさらに進めていく。

3-1-2 水質監視強化 34,396 千円

下水道施設の保全や浄化センターの安定的な運転を目的として、下水処理に影響を及ぼす物質の監視強化を図る。

3-1-4 省エネルギーの推進 367,059 千円

電気使用量及び二酸化炭素排出量の削減を図るため、ポンプ設備の適正化などにより省エネルギー対策を実施する。

・ 穴生浄水場東西系送水ポンプ更新工事 など

3-1-5 新規資源の有効利用 30,000 千円

下水汚泥の肥料化や下水道処理水の活用の検討など、下水道資源の有効活用の取組を進める。

4 国内外へ貢献していく

北九州市の技術を国内外へ提供し、相互発展していく。

4-1 上下水道事業の発展的広域化【1,430,902千円】

北九州都市圏域の中核都市として、外郭団体である（株）北九州ウォーターサービスなどと連携しながら、圏域全体に相乗効果が期待できる上下水道事業の発展的広域化に積極的に取り組むとともに、広域連携を通じて、本市職員の技術の継承や実務能力の向上も図る。

4-1-1 多様な広域連携の推進

207,869 千円

近隣自治体との連携を強化し、発展的広域化の具体化に向けて取り組んでいきます。また、行橋市・苅田町への水道用水供給の拡大及び古賀市・宗像地区事務組合への供給量の増量により、各事業者の経営基盤強化を図る。

4-1-2 外郭団体等との連携強化

1,223,033 千円

外郭団体（（株）北九州ウォーターサービス）との連携を強化するとともに民間事業者の活用を図り、発展的広域化を推進する。

- ・宗像地区水道施設維持管理等業務委託

4-2 本市の技術力・経験を生かした国際貢献【172,771千円】

SDGsのゴールの一つである「安全な水とトイレを世界中に」の達成へ向けて、地元企業等と連携しながら、海外水ビジネスを推進・支援していくとともに、国際貢献を進めていく。

4-2-1、4-2-2 海外事業の展開

172,771 千円

これまでの国際技術協力で培った信頼や人的関係を基に、「北九州市海外水ビジネス推進協議会」との官民連携により、本市経済の活性化に繋げるため、海外水ビジネスを推進していく。

6 培われた高い技術を未来へつなぐ

100年を超える歴史の中で培われた高い技術力を次世代へ継承していく。

6-1 職員の育成と活用【9,900千円】

事業運営に必要な技術や知識の保持・向上を図るため、OJTなどを活用した技術研修や職員の技術力向上に資する資格習得の支援等を行い、一人ひとりの職員が能力を十分発揮できる人材育成を目指します。そのほか、AIを活用した技術の蓄積・継承の研究を行う。

6-1-2 AI等を活用した技術の蓄積・継承の研究 9,900千円

人工衛星から照射されるマイクロ波で、漏水箇所を判定する技術を用いた漏水調査の実証実験を行う。

7 健全な経営を行う

人口の減少が見込まれる状況においても、お客さまへの質の高いサービスを提供しつつ、健全経営を持続させていく。

7-1 効率的・計画的な事業運営【2,244千円】

水需要の低下に伴い、料金収入の減少が見込まれるなかで、今後も安定的に事業を継続していくため、より一層の経費削減に取り組み、経営基盤の強化を図る。

7-1-4 AIやICTを活用した業務の効率化 2,244千円

工事施工前の申請手続きにおいて、立会受付WEBシステムを活用し、道路掘削事業者とインフラ事業者（電気・ガス・水道等）が工事情報を共有することで、作業の効率化を図る。

【参考】

北九州市基本構想(令和6年3月策定)の3つ重点戦略に該当する主な取組

1 「稼げるまち」の実現 ～人も企業も潜在力を開花できるまち～

- (1) 響灘地区等の需要増に伴う工業用水道施設整備 1,038,400千円
響灘地区における工業用水の需要が増加するため、令和7年度供用開始を目指し、令和4～6年度で本城浄水場内の施設整備及び配水管φ900の整備を約1,000m実施します。
- (2) インフラシステムの輸出による海外ビジネス展開 172,771千円
アジアを中心とした国や地域における国際技術協力にビジネスの視点を取り入れるため、国際技術協力を通じた相手国との信頼関係を維持し、また、北九州市海外水ビジネス推進協議会の会員企業との情報共有を図り、官民が連携した海外水ビジネスを展開します。
※会員企業の累計受注実績は、平成22年以降、上水道事業・下水道事業の合算で約240億円
- (3) 新規行橋市・苅田町への水道用水供給事業の拡大等による広域連携の推進 203,900千円
行橋市・苅田町への水道用水供給の拡大及び古賀市・宗像地区事務組合への供給量の増量により、各事業者の経営基盤強化を図ります。
※本市水道事業の固定費負担軽減額は、令和18年度以降、年間約1.9億円
- (4) 新規下水道資源の有効活用 30,000千円
下水汚泥の肥料化や下水道処理水の活用の検討など、下水道資源の有効活用の取組を進めます。

2 「彩りあるまち」の実現 ～輝く個性と楽しさがあふれるまち～

該当なし

3 「安らぐまち」の実現 ～誰もがつながるアットホームなまち～

- (1) 上下水道の地震等対策推進事業 8,373,780千円
地震等の災害被害を最小限にし、早期に機能回復が図れる災害に強いライフラインを構築するため、老朽化した施設の耐震改修を行います。
- (2) 浸水対策事業の推進 2,827,986千円
近年の集中的な豪雨に起因する浸水被害を最小化し、浸水に対する安全度の向上を図るため、雨水管等の整備を行います。

(3) 中期経営計画実施事業設定目標一覧

目標達成の評価基準については下表のとおり

評価	評価内容	評価基準
a	大変良い状況にある (完了事業を含む)	成果目標の達成率を基準に、 原則として 100%以上
b	概ね良い状況にある	成果目標の達成率を基準に、 原則として 60%以上
c	概ね良い状況とまでは 言えない	成果目標の達成率を基準に、 原則として 40%以上
d	不十分な状況にある	成果目標の達成率を基準に、 原則として 40%未満

【参考】

市行政評価の取組結果における事業評価

評価	評価基準
大変順調	成果指標の達成率を基準に、 原則として 120%以上
順調	成果指標の達成率を基準に、 原則として 60%以上
やや遅れ	成果指標の達成率を基準に、 原則として 40%以上
遅れ	成果指標の達成率を基準に、 原則として 40%未満

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和6年度 予算		※※ 最終年度 に対する 達成見込
				項目	目標	目標 年度	取組内容		
上水道事業									
1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる									
1-1 上下水道施設の長寿命化と改築・更新									
1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新									
5年間の事業費(計画)				35,524百万円	R6事業費		7,783百万円		
			浄水施設の 長寿命化	5箇所	R7	1箇所着手 (累計4箇所)	本城浄水場濃縮槽の長寿命化 他	a	
			配水池の長寿命化	9箇所	R7	1箇所実施 (累計7箇所)	花尾配水池長寿命化工事実施	a	
			マッピング システムの 機能強化	一元管理 (6項目)	R7	機能強化 2項目 (累計5項目)	配水池・水質計の点検情報に ついての機能強化等実施	a	
			導送水管更新	6.7km	R7	0.2km更新 (累計3.0km)	送水管更新 0.2km更新	b	
			配水管更新	185km	R7	30.0km更新 (累計124.9km)	配水管更新 30.0km更新	b	
			漏水率	6.0%以下	R7	漏水率 6.2%以下	漏水調査 2,400km 配水管更新 30.0km	a	
1-1-2 上下水道施設の規模の最適化									
5年間の事業費(計画)				262百万円	R6事業費		49百万円		
			配水池の統廃合 (尾倉)	尾倉配水池 廃止	R6	0.1km整備 (累計0.4km)	配水管整備 L=0.1km	a	
			配水池の統廃合 (黒川)	工事実施	R7	- (累計0.2km)	整備なし	b	
			水需要予測及び 施設規模の検討	検討内容の中間 取りまとめ	R7	推進	水需要予測・施設規模の 検討	a	
1-2 豪雨対策の拡充・強化									
1-2-2 上下水道施設の豪雨対策									
5年間の事業費(計画)				132百万円	R6事業費		18百万円		
			豪雨対策施設整備	5箇所	R7	4箇所目着手 (累計3箇所)	伊佐座取水場の減災・防災工 事及び次年度整備箇所の設計	a	

※※現中期経営計画の最終年度である令和7年度末時点
(以下ページ同じ)

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和6年度 予算		※※ 最終年度 に対する 達成見込		
				項目	目標	目標 年度	取組内容				
				1-3 震災対策の拡充・強化							
				1-3-1 上下水道施設の耐震化							
				5年間の事業費(計画) 27,669百万円					R6事業費	5,824百万円	
				浄水場耐震化率	59.2%	R7	59.2% 〔工事完了の R10で77.5%〕	本城浄水場の濃縮槽の耐震化工事等	a		
				配水池の耐震化率	60.1%	R7	59.7%	小熊野第一配水池耐震化工事実施	a		
				危険箇所整備	2箇所 (累計10箇所)	R5	1箇所実施 (累計9箇所)	小森江配水池の対策工事実施・危険箇所の総点検及び整備計画策定	a		
				基幹管路の耐震適合率	51.6%	R7	51.4%	送水管の耐震化 0.2km 配水本管の耐震化 1.5km	a		
				広域避難地等に 至る配水管の耐震化	9箇所 (累計26箇所)	R7	1箇所実施 (累計25箇所)	配水管耐震化工事	a		
				1-3-2 バックアップ機能の強化							
				5年間の事業費(計画) 1,303百万円					R6事業費	206百万円	
				八重洲分岐 ～城野分岐 送水管2条化	完了 (累計2.4km)	R7	0.1km整備 (累計1.2km)	送水管整備工事	c		
				井手浦系配水本管 のループ化	完了 (累計1.1km)	R7	0.3km整備 (累計1.0km)	配水本管整備	a		
				1-4 危機管理体制の充実・強化							
				1-4-1 事故対応能力の向上							
				5年間の事業費(計画) -					R6事業費	-	
模擬事故訓練 (局全体)	1回	毎年	1回	模擬事故訓練実施	a						
模擬事故訓練 (水道部)	2回	毎年	2回	模擬事故訓練実施	a						
危機管理研修 (水道部)	3回	毎年	3回	危機管理研修実施	a						

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和6年度 予算		※※ 最終年度 に対する 達成見込		
				項目	目標	目標 年度	取組内容				
				1-4-2 民間事業者や他都市等との連携強化							
				5年間の事業費(計画)			—		R6事業費	—	
				日本水道協会九州 地方支部間での 合同防災訓練	1回	毎年	1回	合同防災訓練実施 (九州九都市参加)	a		
				日本水道協会九州 地方支部間での 情報伝達訓練	1回	毎年	1回	情報伝達訓練実施 (九州九都市参加)	a		
				19大都市間での 情報伝達訓練	1回	毎年	1回	情報伝達訓練実施 (19大都市参加)	a		
				1-4-3 停電対策							
				5年間の事業費(計画)			325百万円		R6事業費	53百万円	
				非常用発電設備 整備	7箇所 (累計15箇所)	R7	1箇所実施 (累計13箇所)	森下分岐非常用発電設備 更新工事実施	a		
				1-4-4 災害時における機能確保の推進							
				5年間の事業費(計画)			176百万円		R6事業費	19百万円	
				応急給水施設整備	6箇所	R7	1箇所整備 (累計2箇所)	応急給水塔整備工事実施	b		
				非常用給水袋備蓄	5万枚維持	毎年	5万枚維持	使用実績に応じて必要数 を購入し、5万枚を維持	a		
				給水車運転資格 取得支援者数	25人	R7	4人 (累計16人)	平成19年度運転免許制度 改正に伴い、準中型免許 取得支援	b		
2 いつでも安心して飲める安全な水を届ける											
2-1 水源を守るための取組											
2-1-1 水源林の保全											
5年間の事業費(計画)			41百万円		R6事業費	6百万円					
市民参加人数	360人以上	毎年	360人以上	水源地域での植樹・育樹 活動	a						

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和6年度 予算		※※ 最終年度 に対する 達成見込	
				項目	目標	目標 年度	取組内容			
				2-1-2 遠賀川の水質保全						
				5年間の事業費(計画) 48百万円			R6事業費 10百万円			
				遠賀川環境保全 活動団体への支援	40団体以上	毎年	40団体以上	住民団体等による遠賀川 流域の環境保全活動・ 普及啓発活動に対する支援		a
				水質保全に向けた 関連協議会への 参加	2団体	毎年	2団体	遠賀川水系水環境保全・ 再生推進協議会 及び 遠賀川水系水道事業者 連絡協議会 に参加		a
				2-2 取水から蛇口までの水質管理						
				2-2-1 安全な水対策						
				5年間の事業費(計画) 277百万円			R6事業費 322百万円			
				水安全計画の レビュー (見直し)	5件	毎年	5件	各浄水場(井手浦、道原、穴 生、畑、本城)を対象に実施		a
				水処理の 調査・研究	1件以上	毎年	1件以上	浄水技術、分析技術の向上等 に関する調査研究		a
				2-2-2 水源や浄水場を有効に活用した水の供給						
				5年間の事業費(計画) -			R6事業費 -			
				貯水状況に応じた 東西応援	実施	毎年	実施	貯水量 多 ⇒東部：増、西部：減 貯水量 少 ⇒東部：減、西部：増		a
2-2-3 直結式給水の普及促進や小規模貯水槽水道の管理指導										
5年間の事業費(計画) 130百万円			R6事業費 33百万円							
小規模貯水槽水道 の文書指導、直結 式給水のPR	設置者全件 (約3,000件)	毎年	設置者全件 (約3,000件)	貯水槽水道管理水準向上のため、設置者(全件)へ 文書指導実施	a					

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和6年度 予算		※※ 最終年度 に対する 達成見込
			項目	目標	目標 年度	取組内容		
			2-2-4 水質管理体制の充実			R6事業費		
			5年間の事業費(計画) 142百万円			35百万円		
			水道GLPの 継続認定取得	継続取得	毎年	継続取得	分析技術や精度管理の 向上に努め、水道水の 信頼性確保	a
			外部精度管理結果 (良好判定) 取得	2項目以上	毎年	2項目以上	良好判定取得	a
			新たな検査項目 の設定、監視	5項目	毎年	4項目	新たな検査項目を4項目 設定(累計25項目達成予定)	a
			新たな情報 コンテンツの発信	2件	R7	2件 (継続)	学校や自宅等でもできる 水質浄化実験の紹介 小学生が理解できる水質 検査結果の解説等	a
			3 環境負荷の低減を図り、持続可能な社会に貢献する					
			3-1 環境負荷に配慮した事業の推進					
			3-1-3 再生可能エネルギーの活用			R6事業費		
			5年間の事業費(計画) -			-		
			再生可能 エネルギー利用率	15%以上	毎年	15%以上	既設の水力発電設備、 太陽光発電設備の活用	a
			二酸化炭素 排出量削減 (H17年度比)	2,200t	毎年	2,200t	再生可能エネルギーの利用促 進による削減	a
			新たな再生可能 エネルギーの 調査・研究	実施	毎年	実施	関係課において再生可能エネ ルギー活用の取組を継続して 調査・研究	a
			3-1-4 省エネルギーの推進			R6事業費		
5年間の事業費(計画) 421百万円			240百万円					
電力使用量	過去5年 平均以下	毎年	過去5年 平均以下	設備の更新や能力の適正化 を実施	a			
二酸化炭素 排出量削減 (H17年度比)	3,000t/年	R7	2,700t/年	穴生浄水場送水ポンプ更新	a			
新たな 省エネルギー対策 の調査・研究	実施	毎年	実施	関係課において省エネルギー 対策の取組を継続して調査・ 研究	a			

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和6年度 予算		※※ 最終年度 に対する 達成見込	
			項目	目標	目標 年度	取組内容			
			3-1-5 資源の有効利用						
			5年間の事業費		22百万円		R6事業費	4百万円	
			浄水汚泥の有効利用	100%	毎年	100%	汚泥の有効利用実施	a	
			廃棄水道メーターの再資源化	100%	毎年	100%	廃棄水道メーターの再資源化実施	a	
			7 健全な経営を行う						
			7-1 効率的・計画的な事業運営						
			7-1-1 上下水道施設の規模の最適化					1-1-2 再掲	
			7-1-2 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新					1-1-1 再掲	
			7-2 多様な収入の確保						
			7-2-2 水道・工業用水道利用促進対策						
5年間の事業費(計画)		—			R6事業費	—			
水道水の利用促進にかかるPRの実施	推進	毎年	推進	大口使用者特割制度の企業へのPR・安価な料金についてイベント等でのPRを実施	a				
工業用水道事業									
1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる									
1-1 上下水道施設の長寿命化と改築・更新									
1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新									
5年間の事業費(計画)		4,217百万円			R6事業費	1,695百万円			
浄水施設の長寿命化	3箇所	R7	1箇所着手(累計2箇所)	小竹系沈澱池、濃縮槽の長寿命化工事等実施	a				
工業用水道管路の更新	4.3km	R7	1.5km更新(累計5.1km)	工業用水道管路の更新	a				
1-3 震災対策の拡充・強化									
1-3-1 上下水道施設の耐震化					1-1-1 再掲				
7 健全な経営を行う									
7-1 効率的・計画的な事業運営									
7-1-2 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新					1-1-1 再掲				
7-1-4 AIやICTを活用した業務の効率化									
5年間の事業費(計画)		—			R6事業費	—			
スマート検針システム運用	開始	R3	R3開始済	—	a				

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和6年度 予算		※※ 最終年度 に対する 達成見込	
				項目	目標	目標 年度	取組内容			
			7-2	多様な収入の確保						
			7-2-2	水道・工業用水道利用促進対策 5年間の事業費(計画)			-	R6事業費	-	
				新規または増量 件数	5件	R7	1件 (累計5件)	PR活動の実施	a	
下水道事業										
1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる										
1-1 上下水道施設の長寿命化と改築・更新										
1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新										
				5年間の事業費(計画)	20,834百万円		R6事業費	4,349百万円		
				浄化センター・ ポンプ場設備の 計画的な 改築・更新	120設備 (24設備/年)	R7	21設備 (累計96設備)	改築・更新(電気・機械 設備機器)実施	a	
				下水道管渠の 点検調査	550km (110km/年)	R7	110km (累計432.8km)	点検・調査(TVカメラ 調査等)実施	a	
				下水道管渠の 改築・更新	115km (23km/年)	R7	23km (累計71.6km)	改築・更新(管更生 工事等)実施	b	
1-1-2 上下水道施設の規模の最適化										
				5年間の事業費(計画)	7,992百万円		R6事業費	1,965百万円		
				皇后崎・北湊 処理区の再編	再編完了	R7	工事実施	下水道管の新設工事実施	a	
				皇后崎浄化 センターの再構築	3系統のうち 1系統の 集約化完了	R7	工事実施	改築工事(エアレーションタ ンク・最終沈澱池)	a	
				中川通ポンプ場 の移転改築	工事着手	R7	実施(詳細)設計	R6:実施(詳細)設計、用地 取得、R7~:管渠築造、土 木・建築、機械・電気工事	a	
				施設規模と機能 の最適化	新町・日明 処理区の 検討着手	R7	基本設計	再構築に向けた検討業務 委託(基本設計)実施	a	
1-2 豪雨対策の拡充・強化										
1-2-1 浸水被害の最小化										
				5年間の事業費(計画)	14,320百万円		R6事業費	2,750百万円		
				重点整備地区 (16地区)の うち9地区の整備	9地区 整備完了	R7	1地区 (累計6地区)	長野津田地区の整備完了 上葛原二丁目地区等の整備	a	

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和6年度 予算		※※ 最終年度 に対する 達成見込		
			項目	目標	目標 年度	取組内容				
			1-2-2 上下水道施設の豪雨対策							
			5年間の事業費(計画)			—		R6事業費	60百万円	
			耐水化計画の 策定	完了	R3	R3策定済	—		a	
			耐水化計画に 基づく浸水防止 設備の整備	実施	R7	浸水防止設備対策 工事実施	竹馬川第4ポンプ場・曾根新 田北ポンプ場・楠橋ポンプ場 の耐水化対策工事		a	
			1-3 震災対策の拡充・強化							
			1-3-1 上下水道施設の耐震化							
			5年間の事業費(計画)			11,150百万円		R6事業費	2,343百万円	
			重要な15ポンプ 場の耐震化率	73.3%	R7	66.7%	城野ポンプ場等の耐震 補強工事実施		a	
			重要な管渠の 耐震化率	50.7%	R7	50.0%	管渠の耐震化 7km		a	
			1-4 危機管理体制の充実・強化							
			1-4-1 事故対応能力の向上							
			5年間の事業費(計画)			—		R6事業費	—	
			模擬事故訓練 (局全体)	1回	毎年	1回	模擬事故訓練実施		a	
			模擬事故訓練 (下水道部)	1回	毎年	1回	模擬事故訓練実施		a	
			危機管理研修 (下水道部)	1回	毎年	1回	危機管理研修実施		a	
			1-4-2 民間事業者や他都市等との連携強化							
			5年間の事業費(計画)			—		R6事業費	—	
地元民間事業者 との訓練	1回	毎年	1回	地元民間事業者との訓練 実施 (設計コンサルタント等)		a				
21大都市間情報 連絡訓練	1回	毎年	1回	大都市間情報連絡訓練 実施 (21大都市参加)		a				
被災を想定した 他都市との合同 訓練	1回	毎年	1回	他都市との訓練実施		a				

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和6年度 予算		※※ 最終年度 に対する 達成見込
			項目	目標	目標 年度	取組内容		
			1-4-4 災害時における機能確保の推進			R6事業費		
			5年間の事業費(計画) 50百万円			10百万円		
			マンホールトイレ の整備 (累計)	1箇所/年 (累計11箇所)	R7	1箇所 (累計10箇所)	響灘緑地の整備	a
			1-4-5 自助・共助の促進に向けたソフト施策の充実			R6事業費		
			5年間の事業費(計画) 125百万円			154百万円		
			内水浸水想定 区域図の拡充	完了	R7	実施	内水浸水想定区域図の作成	a
			出前講演による 周知	2件	毎年	2件	浸水被害軽減のための 出前講演実施	a
			3 環境負荷の低減を図り、持続可能な社会に貢献する					
			3-1 環境負荷に配慮した事業の推進					
			3-1-1 合流式下水道の改善推進			R6事業費		
			5年間の事業費(計画) 5,100百万円			0百万円		
			合流改善達成率	100%	R5	R5完了	-	a
			3-1-2 水質監視強化			R6事業費		
			5年間の事業費(計画) 151百万円			34百万円		
			浄化センターから の放流水質基準 違反件数	0件	毎年	0件	放流水中の有害物質・生活 環境項目等の実態把握	a
工場等への立入 検査	対象事業場 等の半数 (200件超)	毎年	対象事業場等 の半数 (206件)	届出内容や水質管理状況に ついて立入検査実施	a			
工場等への水質 検査	対象事業場等 について2回以上 (500件程度)	毎年	対象事業場等 について 2回以上 (500件程度)	事業場排水の水質検査実施	a			
水質管理講習会 実施	1回	毎年	1回	法規制の周知、下水道の 適切な利用に関する啓発 実施	a			
水質改善の 調査・研究	1件	毎年	1件	生物学的りん除去と活性汚泥 中の全りん濃度に関する調査	a			

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和6年度 予算		※※ 最終年度 に対する 達成見込	
			項目	目標	目標 年度	取組内容			
			3-1-3 再生可能エネルギーの活用			R6事業費			
			5年間の事業費(計画)			—	0百万円		
			再生可能 エネルギー利用率	3%以上	毎年	3%以上	消化ガス・太陽光発電等 の活用継続	a	
			二酸化炭素排出量 削減	535t	毎年	535t	消化ガス・太陽光発電等 の活用による二酸化炭素 排出量削減	a	
			新たな再生可能 エネルギーの 調査・研究	実施	毎年	実施	新たな再生可能 エネルギーの 調査・研究の継続	a	
			3-1-4 省エネルギーの推進			R6事業費			
			5年間の事業費(計画)			50百万円	127百万円		
			ポンプ場照明設備 のLED化(累計)	1箇所/年 (累計6箇所)	R7	1箇所 (累計5箇所)	東中島ポンプ場等の 照明設備のLED化	a	
			二酸化炭素排出量 削減	25t/年 (R2年度比)	R7	21.57t/年 (R2年度比) 〔前年度より 5t増〕	照明設備のLED化による 二酸化炭素排出量削減	a	
			新たな 省エネルギー対策 の調査・研究	実施	毎年	実施	新たな再生可能 エネルギーの 調査・研究の継続	a	
			3-1-5 資源の有効利用			R6事業費			
			5年間の事業費(計画)			3,539百万円	952百万円		
			汚泥の 有効利用率	100%	毎年	100%	セメント原料化・ 汚泥燃料化等実施 肥料化に向けた研究実施	a	
			3-2 環境負荷低減に向けた研究の推進						
			3-2-1 ウォータープラザ北九州の有効活用			R6事業費			
5年間の事業費(計画)			22百万円	4百万円					
見学者の受入れ	200人以上	毎年	200人以上	水処理関係企業・団体への施 設利用の促進、水処理ニーズ に関する情報・人的交流の実 施	a				
7 健全な経営を行う									
7-1 効率的・計画的な事業運営									
7-1-1 上下水道施設の規模の最適化			1-1-2 再掲						
7-1-2 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新			1-1-1 再掲						

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和6年度 予算		※※ 最終年度 に対する 達成見込
				項目	目標	目標 年度	取組内容		
共通事業									
4 国内外へ貢献していく									
4-1 上下水道事業の発展的広域化									
4-1-1 多様な広域連携の推進									
5年間の事業費(計画) 74百万円 R6事業費 208百万円									
			地区別勉強会、 セミナー開催	1回以上	毎年	1回以上	近隣自治体との勉強会、 セミナーの開催	a	
			技術研修の受入れ	7回以上	毎年	7回以上	近隣自治体職員の研修 受入れ	a	
4-1-2 外郭団体等との連携強化									
5年間の事業費(計画) 5,343百万円 R6事業費 1,223百万円									
			宗像地区事務組合 水道事業包括業務 の受託	継続	毎年	継続	宗像地区事務組合（宗像 市・福津市）の水道事業 包括業務の受託継続	a	
			受託業務の拡大	3件	R7	1件 (累計7件)	北九州ウォーターサービス との近隣自治体のニーズの 共有、受注拡大への検討 及び年次計画の検討	a	
4-2 本市の技術力・経験を生かした国際貢献									
4-2-1 上下水道技術の国際協力									
5年間の事業費(計画) 232百万円 R6事業費 67百万円									
			研修員受入れ	【～R3年度】 380人 【R4年度～】 180人	毎年	100人	海外技術者育成に係る 研修員受入れ	c	
			職員派遣	4人	毎年	22人	国際技術協力に係る 職員派遣	a	
4-2-2 海外水ビジネスの推進・支援									
5年間の事業費(計画) 532百万円 R6事業費 106百万円									
			市が関与する ビジネス案件数	6件	毎年	6件	国際技術協力や企業の 海外水ビジネス支援	a	

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和6年度 予算		※※ 最終年度 に対する 達成見込		
			項目	目標	目標 年度	取組内容				
			5 お客さまが求めるものをかたちにする							
			5-1 お客さまの理解と信頼を得る							
			5-1-1 効果的な広報・広聴活動の推進							
			5年間の事業費(計画) 243百万円					R6事業費	41百万円	
			広報活動による お客さまの認知度	向上	R7	継続	広報紙の発行、キッズサイト (Web化した副読本)の運用	a		
			広聴活動による お客さまニーズ の把握	推進	R7	推進	お客さまアンケート・ 事業所アンケート実施 5-2-3 再掲	a		
			5-1-2 小学生を対象とした上下水道に関する情報発信							
			5年間の事業費(計画) 7百万円					R6事業費	1百万円	
			出前授業	各区1校	毎年	7校実施	市内小学生を対象に体験 型学習を実施	a		
			5-2 お客さま満足度の向上							
			5-2-1 営業業務の見直し							
			5年間の事業費(計画) -					R6事業費	-	
			ICT技術等を活用 した新たな施策の 調査・研究	推進	R7	推進	他都市照会によるICT技術等 活用の現況調査	a		
			お客さまサービスの 評価向上	推進	R7	推進	お客さまサービス向上の ために委託業務の管理・ 監督実施	a		
			5-2-2 料金の支払や各種手続方法の拡充							
			5年間の事業費(計画) 20百万円					R6事業費	3百万円	
料金支払方法の 多様化、拡充	実施	R7	検討	スマートフォン決済取扱 機関の拡充、納付書払い の電子マネー利用等に ついて検討	a					
口座振替 インターネット 手続き	開始	R3	R4開始済	-	a					
5-2-3 上下水道事業に関するアンケート調査の実施と施策への反映										
5年間の事業費(計画) 6百万円					R6事業費	4.4百万円				
アンケート調査を 踏まえたお客さま ニーズや課題への 的確な対応	実施	R7	実施	例年のモニターに対する アンケートの他、 お客さまアンケート・ 事業所アンケート実施	a					

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和6年度 予算		※※ 最終年度 に対する 達成見込		
				項目	目標	目標 年度	取組内容				
				6 培われた高い技術を未来へつなぐ							
				6-1 職員の育成と活用							
				6-1-1 上下水道技術の継承・人材の育成 5年間の事業費(計画) 148百万円				R6事業費	26百万円		
				研修時間(延べ)	1万時間以上	毎年	1万時間以上	研修の実施	a		
				職員の資格保有	1人平均2つ以上	毎年	1人平均2つ以上	資格取得の支援	a		
				インターンシップ受入れ	3件以上	毎年	3件以上	インターンシップの受入れ	a		
				6-1-2 AI等を活用した技術の蓄積・継承の研究 5年間の事業費(計画) 101百万円				R6事業費	10百万円		
				AI及びICTなどを活用した技術の蓄積・継承の取組	2件以上	R7	2件(継続)	衛星とAIを活用した漏水調査(R5から引き続き実施)	a		
				6-1-3 上下水技術の国際協力				4-2-1 再掲			
				6-2 民間事業者等との連携推進							
				6-2-1 民間事業者等との連携推進 5年間の事業費(計画) -				R6事業費	-		
				業務の効率化・運営体制検討	推進	R7	検討	新たな業務の効率化・運営体制の見直し項目について検討	a		
				北九州ウォーターサービスや民間活力の活用	推進	R7	推進	北九州ウォーターサービスや民間事業者の活用に係る検討	a		
				6-2-2 産学官連携による研究開発の推進 5年間の事業費(計画) 17百万円				R6事業費	3百万円		
				新技術等の調査研究	1件以上	毎年	1件以上	民間企業等による実証実験の支援	a		

中期経営計画実施事業 進捗状況一覧

※事業費は再掲の数値あり

事業	将来像	重点施策	実施事業	設定目標 (中期経営計画 最終目標)			令和6年度 予算		※※ 最終年度 に対する 達成見込
				項目	目標	目標 年度	取組内容		
				7 健全な経営を行う					
				7-1 効率的・計画的な事業運営					
				7-1-3 民間事業者等との連携推進			6-2-1 再掲		
				7-1-4 AIやICTを活用した業務の効率化 5年間の事業費(計画) -			R6事業費 77百万円		
				効率化の取組件数	5件以上	R7	0件 (累計7件)	従前から実施している 以下の6件について継続 して実施 ①給水装置・排水設備事務の効率化、②工水のスマート検針による効率化、③会議や研修の効率化、④施設運転維持管理の効率化、⑥営業業務の効率化、⑦工事立合受付WEBシステムの活用	a
				7-2 多様な収入の確保					
				7-2-1 資産の有効活用 5年間の収入額(計画) 538百万円			R6収入額 165百万円		
				資産の利活用 による収入	1億円以上	毎年	1億円以上	土地貸付等による収入の確保	a
				7-2-3 多様な広域連携の推進			4-1-1 再掲		
				7-3 経営基盤強化に向けた検討					
				7-3-1 料金体系のあり方の検討 5年間の事業費(計画) -			R6事業費 5百万円		
				料金体系のあり方 の検討	実施	R7	実施	次期中期計画策定に合わせた 検討実施、他都市における料 金体系調査・研究。	a
				7-3-2 外部検討会の開催 5年間の事業費(計画) 9百万円			R6事業費 3百万円		
開催	2回	毎年	2回以上	中期経営計画の進捗 報告、次期中期経営計画 策定に向けた検討等	a				

3 令和6年度 上下水道局予算 経営状況

<水道事業>

- 収益的収支は、10.0億円のマイナス
- 単年度資金収支は、13.9億円のマイナス
(累積資金剰余 15.0億円)
- 企業債残高は、637.6億円

<水道用水供給事業>

- 収益的収支は、0.1億円の黒字
- 単年度資金収支は、0.2億円の黒字を確保
(累積資金剰余 1.0億円)
- 企業債残高は、31.4億円

【工業用水道事業会計】

- 収益的収支は、0.7億円の黒字
- 単年度資金収支は、6.7億円のマイナス
(累積資金剰余 9.3億円)
- 企業債残高は、32.6億円

【下水道事業会計】

- 収益的収支は、6.4億円のマイナス
- 単年度資金収支は、6.6億円のマイナス
(累積資金剰余 22.4億円)
- 企業債残高は、1,410.1億円

(単位：百万円)

	上水道事業		小計	工業用 水道事業	下水道 事業	合計
	水道事業	水道用水 供給事業				
収益的収入	20,144	903	21,047	1,988	27,694	50,730
料金(使用料)収入	15,151	788	15,939	1,710	14,404	32,054
収益的支出	21,141	898	22,039	1,916	28,338	52,293
収支差引	▲ 997	5	▲ 992	72	▲ 644	▲ 1,563
資本的収入	6,740	465	7,205	1,412	13,858	22,474
資本的支出	14,647	666	15,313	2,671	24,284	42,269
収支差引	▲ 7,907	▲ 202	▲ 8,109	▲ 1,259	▲ 10,427	▲ 19,795
補填財源	6,519	222	6,741	592	9,767	17,101
単年度資金収支	▲ 1,388	20	▲ 1,367	▲ 668	▲ 659	▲ 2,694
計画	▲ 920	47	▲ 873	▲ 327	▲ 217	▲ 1,416
計画比(予算-計画)	▲ 467	▲ 27	▲ 494	▲ 341	▲ 443	▲ 1,278
累積資金剰余	1,501	104	1,605	933	2,243	4,781
計画	2,306	196	2,502	1,281	2,525	6,308
計画比(予算-計画)	▲ 805	▲ 92	▲ 896	▲ 348	▲ 282	▲ 1,527
企業債残高	63,759	3,139	66,898	3,263	141,014	211,175
計画	59,425	2,950	62,374	1,785	139,401	203,560
計画比(予算-計画)	4,334	189	4,523	1,479	1,613	7,615

※表中の数字は四捨五入による端数調整をしていないため、合計等は必ずしも一致しない。

(1) 水道事業

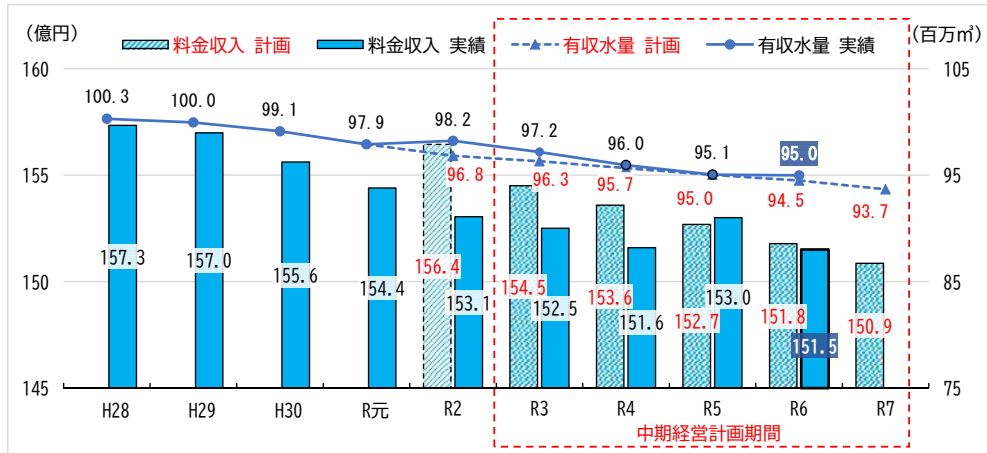
①総括表

(単位：百万円)

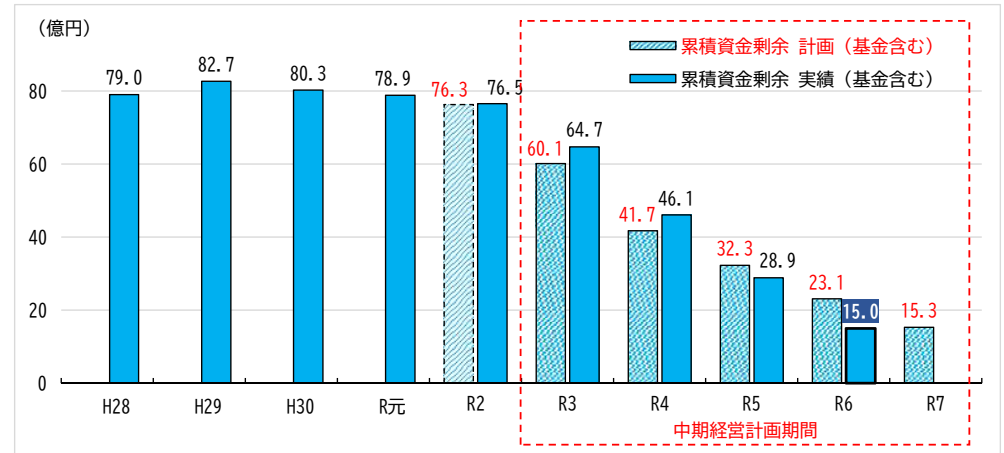
		R5年度 当初予算 (A)	R6年度 計画 (B)	R6年度 当初予算 (C)	前年度比 (C-A)	計画比 (C-B)
収益的 収支	収益的収入 ①	20,085	19,756	20,144	59	387
	料金収入（原水除く）	15,301	15,178	15,151	▲ 150	▲ 27
	口径別納付金	409	451	387	▲ 22	▲ 65
	その他	4,375	4,127	4,606	231	479
	収益的支出 ②	20,457	19,440	21,141	684	1,701
	人件費	2,558	2,700	2,593	35	▲ 107
	維持管理費	3,339	3,177	3,404	65	227
	減価償却費等	8,656	8,307	8,875	219	568
	企業債利息	707	713	714	7	1
	その他	5,197	4,543	5,555	358	1,012
収支差引 ③=①-②		▲ 372	317	▲ 997	▲ 625	▲ 1,314
資本的 収支	資本的収入 ④	5,317	4,082	6,740	1,423	2,659
	企業債	4,347	3,280	5,515	1,168	2,235
	その他	970	802	1,225	255	424
	資本的支出 ⑤	14,049	12,702	14,647	599	1,946
	整備費	9,025	7,844	8,997	▲ 28	1,152
	企業債償還金	3,306	3,236	3,405	98	169
	その他	1,717	1,622	2,246	529	624
収支差引 ⑥=④-⑤		▲ 8,731	▲ 8,620	▲ 7,907	824	713
補填財源 ⑦		7,011	7,700	6,519	▲ 491	▲ 1,180
単年度資金収支 ⑧=⑥+⑦		▲ 1,721	▲ 920	▲ 1,388	333	▲ 467
累積資金剰余 ⑨		2,889	2,306	1,501	▲ 1,388	▲ 805
企業債残高		61,648	59,425	63,759	2,110	4,334

②推移 (実績のうちH28～R4は決算、R5・R6は予算)

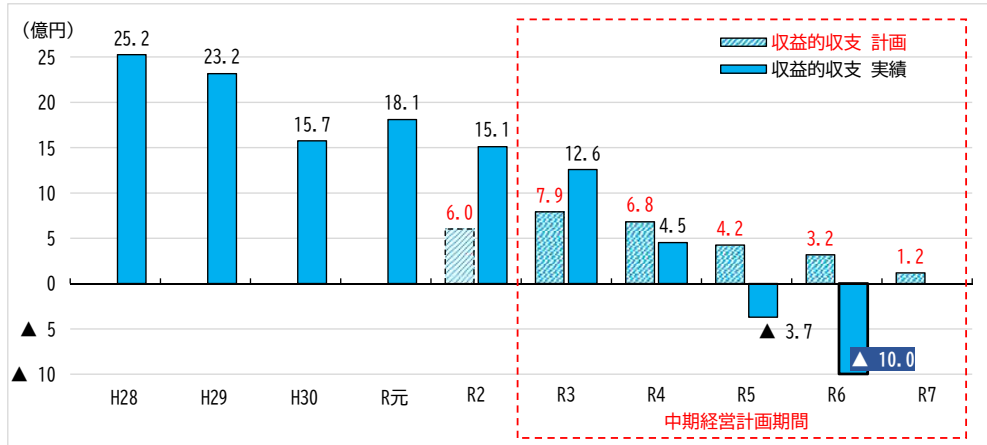
【料金収入・有収水量の推移】



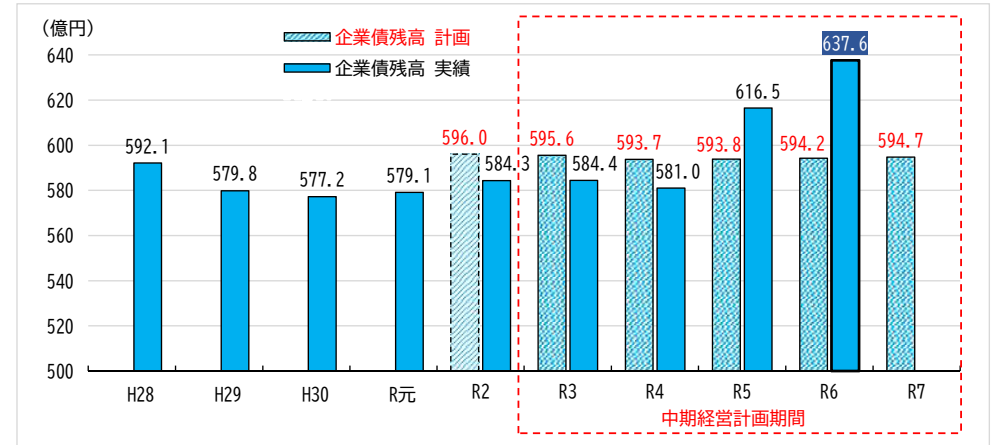
【累積資金剰余の推移】



【収益的収支の推移】



【企業債残高の推移】



③総論

【R6年度予算】

浄化費用が増加したことなどが原因で、収益的収支は計画値を下回り、累積資金剰余も計画値より減少している。

また、整備費の増加に伴い企業債の発行額が増加し、その結果、企業債残高は計画値を上回ることとなった。

(2) 水道用水供給事業

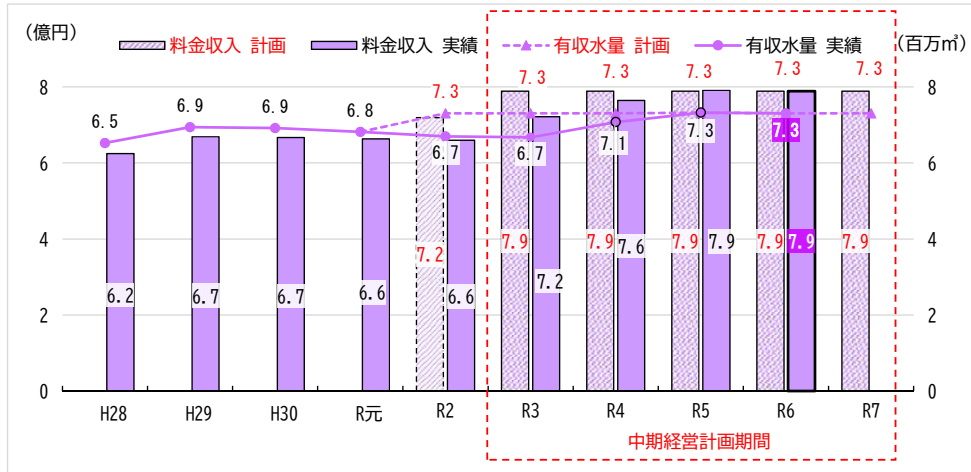
①総括表

(単位：百万円)

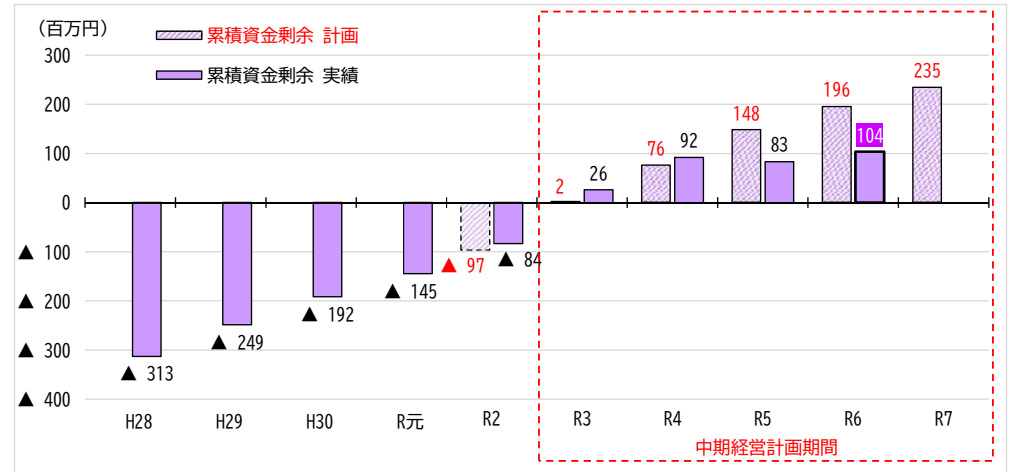
		R5年度 当初予算 (A)	R6年度 計画 (B)	R6年度 当初予算 (C)	前年度比 (C - A)	計画比 (C - B)
収益的 収支	収益的収入 ①	906	905	903	▲ 3	▲ 2
	料金収入	791	788	788	▲ 2	0
	その他	115	116	115	0	▲ 2
	収益的支出 ②	899	819	898	▲ 1	78
	人件費	57	62	61	4	▲ 1
	維持管理費	208	219	223	16	4
	減価償却費等	306	308	305	▲ 1	▲ 3
	企業債利息	66	62	63	▲ 3	0
その他	263	168	246	▲ 17	78	
収支差引 ③ = ① - ②		6	85	5	▲ 1	▲ 80
資本的 収支	資本的収入 ④	87	20	465	378	445
	資本的支出 ⑤	318	276	666	349	390
	整備費	67	66	268	201	202
	企業債償還金	187	190	191	4	1
	その他	64	20	208	144	188
収支差引 ⑥ = ④ - ⑤		▲ 231	▲ 256	▲ 202	29	55
補填財源 ⑦		222	304	222	0	▲ 82
単年度資金収支 ⑧ = ⑥ + ⑦		▲ 9	47	20	29	▲ 27
累積資金剰余 ⑨		83	196	104	20	▲ 92
企業債残高		3,163	2,950	3,139	▲ 24	190

②推移 (実績のうちH28～R4は決算、R5・R6は予算)

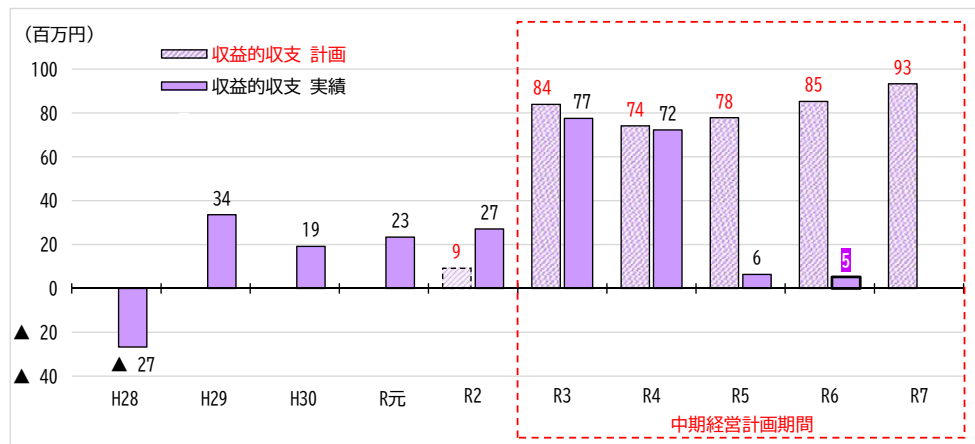
【料金収入・有収水量の推移】



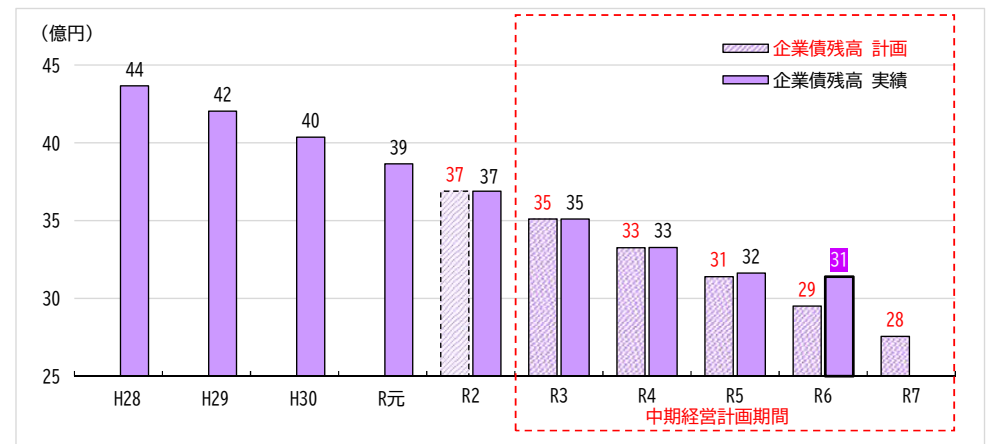
【累積資金剰余の推移】



【収益的収支の推移】



【企業債残高の推移】



③総論

【R6年度予算】

浄化費用が増加したことが原因で、収益的収支は計画値を下回り、累積資金剰余も計画値より減少している。
また、整備費の増加に伴い企業債の発行額も増加し、その結果、企業債残高は計画値を若干上回ることとなった。

(3) 工業用水道事業

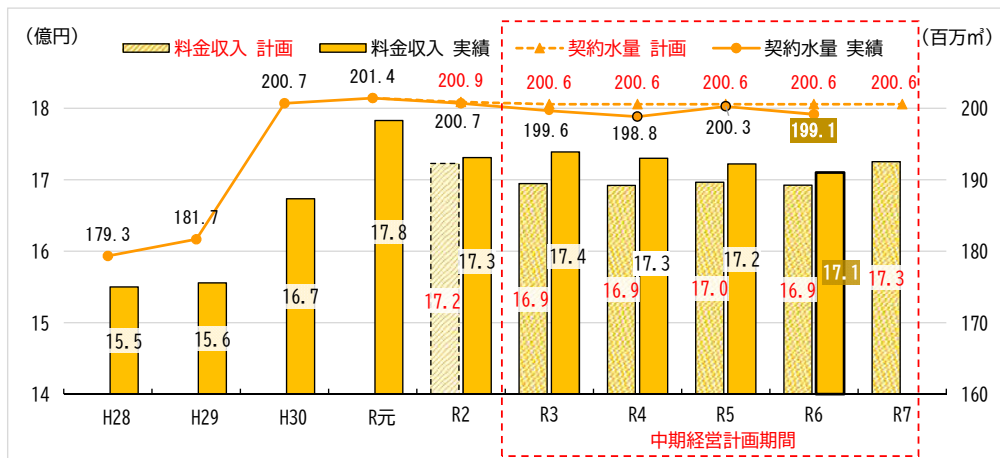
①総括表

(単位：百万円)

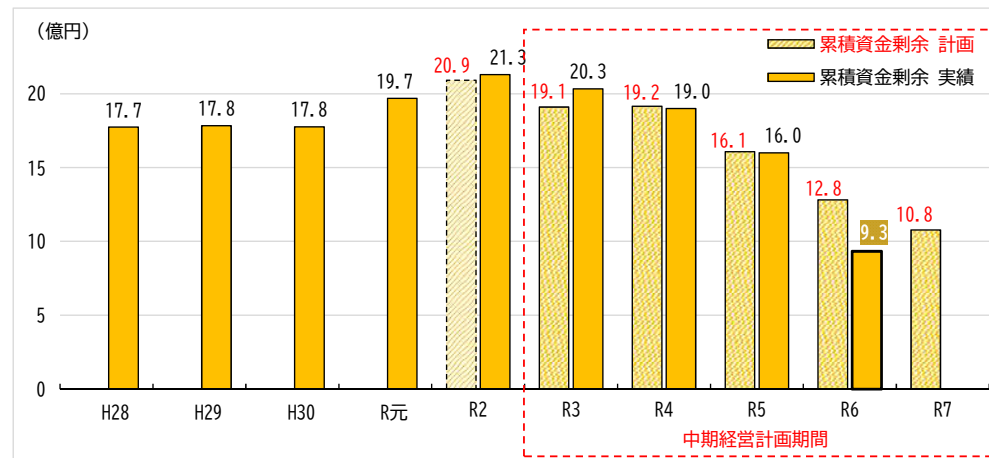
		R5年度 当初予算 (A)	R6年度 計画 (B)	R6年度 当初予算 (C)	前年度比 (C - A)	計画比 (C - B)
収益的 収支	収益的収入 ①	1,999	1,981	1,988	▲ 11	7
	料金収入	1,722	1,692	1,710	▲ 12	18
	その他	277	289	278	1	▲ 11
	収益的支出 ②	1,909	1,751	1,916	7	165
	人件費	247	240	247	0	7
	維持管理費	369	350	373	4	23
	減価償却費等	709	723	730	21	7
	企業債利息	22	23	33	11	10
その他	562	415	534	▲ 29	118	
収支差引 ③ = ① - ②		90	230	72	▲ 18	▲ 158
資本的 収支	資本的収入 ④	1,063	270	1,412	348	1,142
	企業債	798	110	1,186	388	1,076
	国庫補助金	50	32	35	▲ 15	2
	その他	215	128	191	▲ 24	64
	資本的支出 ⑤	1,957	1,330	2,671	714	1,340
	整備費	1,508	1,008	2,252	744	1,244
	企業債償還金	144	134	134	▲ 10	0
	その他	305	189	285	▲ 20	96
収支差引 ⑥ = ④ - ⑤		▲ 894	▲ 1,060	▲ 1,259	▲ 366	▲ 199
補填財源 ⑦		594	734	592	▲ 2	▲ 142
単年度資金収支 ⑧ = ⑥ + ⑦		▲ 300	▲ 327	▲ 668	▲ 368	▲ 341
累積資金剰余 ⑨		1,600	1,281	933	▲ 668	▲ 348
企業債残高		2,211	1,785	3,263	1,052	1,479

②推移 (実績のうちH28～R4は決算、R5・R6は予算)

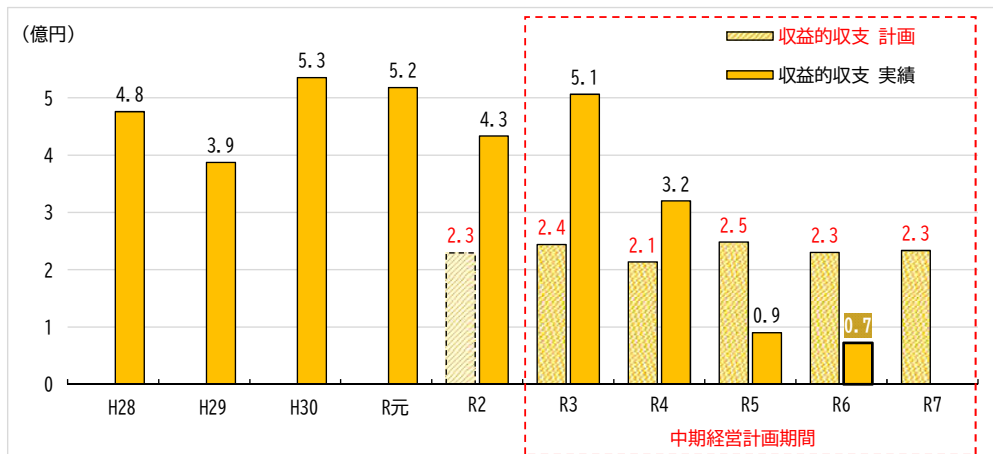
【料金収入・契約水量の推移】



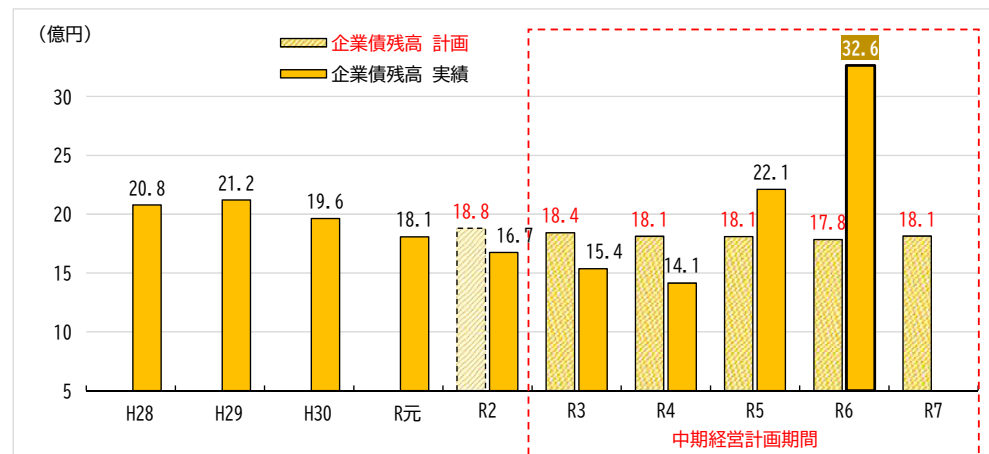
【累積資金剰余の推移】



【収益的収支の推移】



【企業債残高の推移】



③総論

【R6年度予算】

浄化費用が増加したことが原因で、収益的収支は計画値を下回り、累積資金剰余も計画値より減少している。

また、整備費の増加に伴い企業債の発行額も増加し、その結果、企業債残高は計画値を上回ることとなった。

(4) 下水道事業

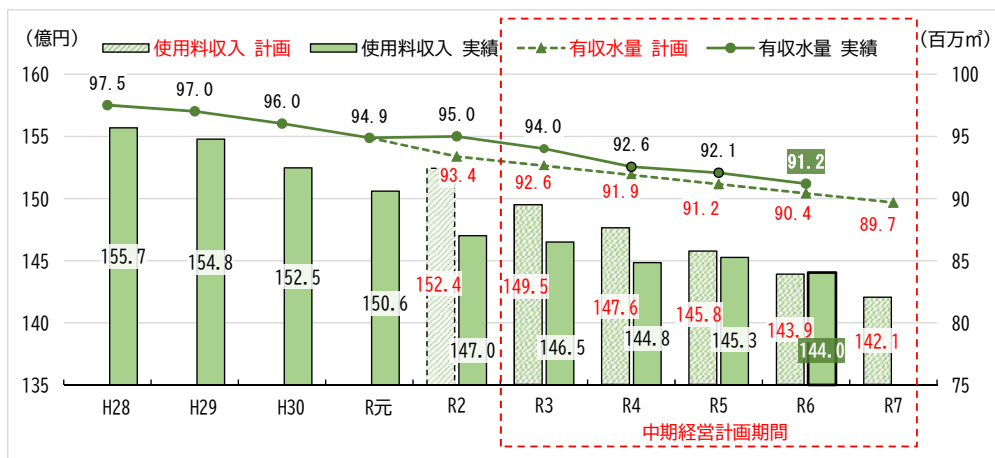
①総括表

(単位：百万円)

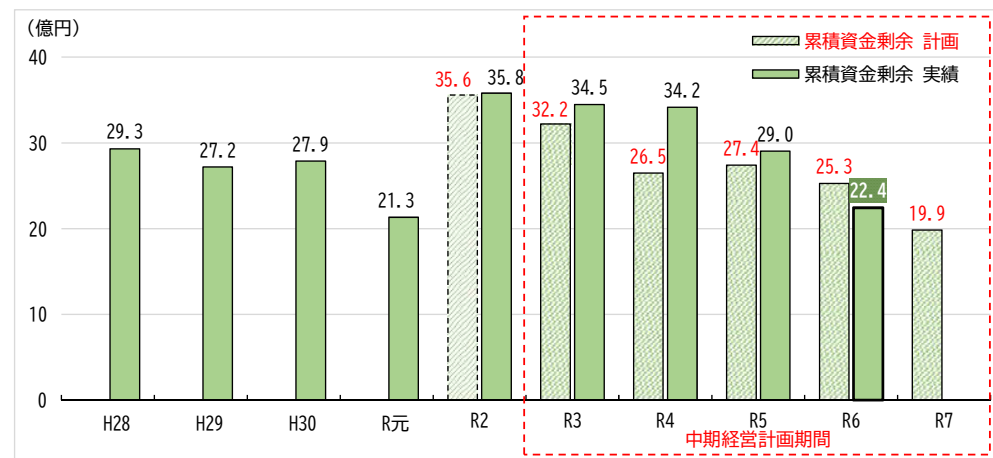
		R5年度 当初予算 (A)	R6年度 計画 (B)	R6年度 当初予算 (C)	前年度比 (C - A)	計画比 (C - B)
収益的 収支	収益的収入 ①	27,467	27,045	27,694	227	649
	下水道使用料収入	14,525	14,392	14,404	▲ 121	12
	一般会計繰入金	6,082	5,898	5,924	▲ 158	26
	その他	6,860	6,755	7,366	507	611
	収益的支出 ②	27,725	26,993	28,338	613	1,345
	人件費	1,062	1,102	1,057	▲ 5	▲ 45
	維持管理費	7,296	6,416	7,568	273	1,152
	減価償却費等	16,346	16,398	16,516	170	117
	企業債利息	1,368	1,643	1,338	▲ 29	▲ 304
	その他	1,655	1,433	1,859	204	425
	収支差引 ③=①-②	▲ 258	53	▲ 644	▲ 385	▲ 697
資本的 収支	資本的収入 ④	13,951	13,155	13,858	▲ 94	703
	企業債	6,451	6,251	6,614	163	363
	国庫補助金	4,864	4,168	4,339	▲ 525	172
	その他	2,636	2,736	2,904	268	168
	資本的支出 ⑤	24,517	24,080	24,284	▲ 233	204
	整備費	12,165	11,503	11,716	▲ 449	213
	企業債償還金	8,698	8,567	8,567	▲ 130	0
	その他	3,654	4,009	4,001	347	▲ 9
収支差引 ⑥=④-⑤	▲ 10,566	▲ 10,925	▲ 10,427	139	499	
補填財源 ⑦	10,053	10,709	9,767	▲ 286	▲ 942	
単年度資金収支 ⑧=⑥+⑦	▲ 513	▲ 217	▲ 659	▲ 146	▲ 443	
累積資金剰余 ⑨	2,903	2,525	2,243	▲ 659	▲ 282	
企業債残高	142,967	139,401	141,014	▲ 1,953	1,613	

②推移 (実績のうちH28～R4は決算、R5・R6は予算)

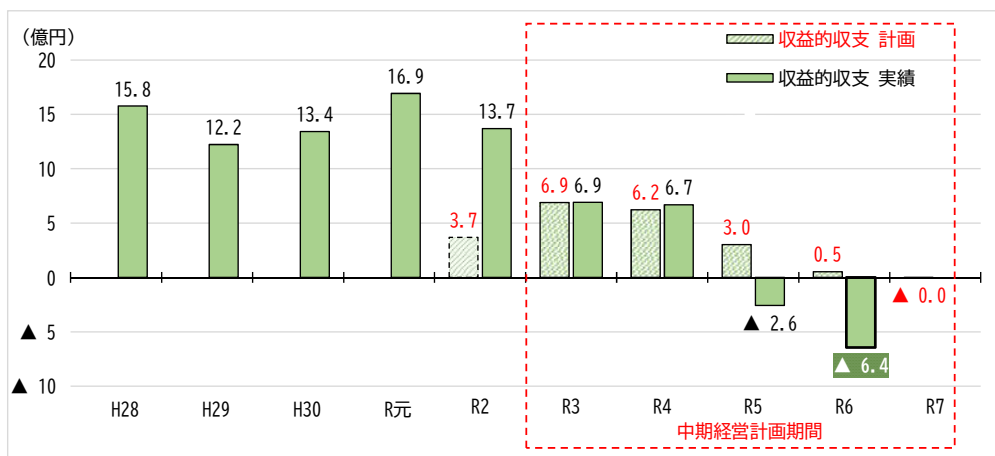
【使用料収入・有収水量の推移】



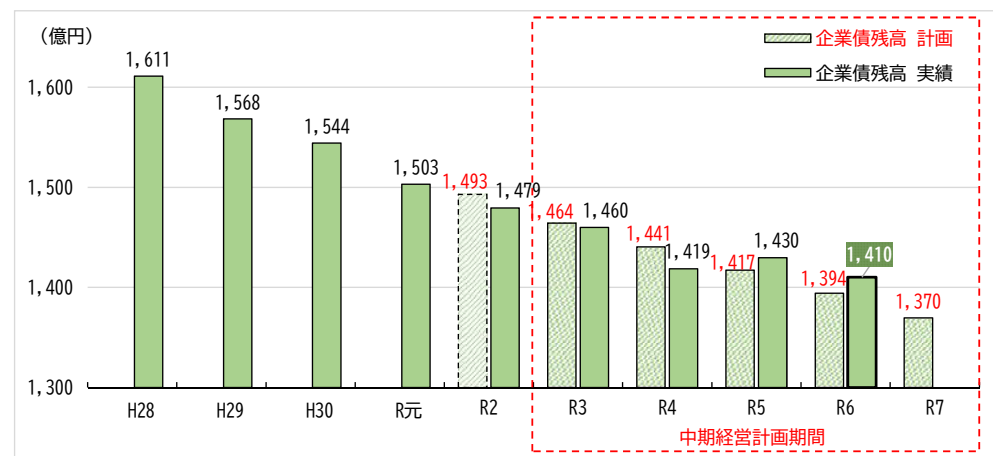
【累積資金剰余の推移】



【収益的収支の推移】



【企業債残高の推移】



③総論

【R6年度予算】

維持管理費（主に処理場費）が増加したことなどが原因で、収益的収支は計画値を下回り、累積資金剰余も計画値より減少している。

また、企業債の発行額が計画値を上回ることなどから、企業債残高についても計画値を上回る事となった。